

学校教育目標	「自ら学び考え 行動する生徒」
目指す学校像	「自ら学び続ける生徒の育成」を目指した「真の学び舎としての学校」
重点目標	1 真の学力の向上をめざした学習指導の充実 2 心身ともに元気で豊かな生徒を育成する生徒支援の充実 3 「地域とともにある学校づくり」をめざしたコミュニティスクールの推進 4 安心・安全な教育環境の整備と管理 5 教職員一人ひとりのよさや個性を活かした学校づくりの推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	[現状] ○令和6年度の学校評価生徒アンケートの結果では、「授業の積極的な参加」に関する項目の肯定的回答と「授業の理解度」に関する項目の肯定的回答はともに約90%であった。 ○令和6年度全国学力・学習調査では、国語・数学の2教科すべてが県・全国平均を上回っている。 [課題] ○元気に明るく授業に参加している生徒が多いが、理解においては確実な定着が課題である。さらに学校での学習を家庭学習の定着に繋げたい。 ○令和6年度全国学力・学習調査の結果では思考力や表現力に課題が見られる。	・情報端末を活用した学びの自律化 ・「大砂土中アクティブラーニングモデル」の授業の実践 ・カリキュラム・マネジメントによる学力の向上	①全国学力・学習調査について、生徒が自己採点し、自らの学習状況を把握できるようにする。 ②スタディサプリやデジタル教材を学校や家庭において積極的に活用し、学力を向上させる。	①教育課程の実施状況 ②自己採点による生徒の学習状況の変容 ③ICT機器を活用した授業の推進状況 ④学校評価の関連事項の回答結果	学校評価職員アンケートの授業での情報端末の活用に関する肯定的回答率は97%、同内容の生徒のアンケートの肯定的回答の割合は96%であった。それにより全国学力・学習調査の結果を生徒が自己採点し、自らの課題を把握することができた。またスタディサプリも朝学習にて実施することで、昨年度に比べると活用率は高まり、学力向上に繋がった。	A	スタディサプリをはじめ、デジタル教材の活用を家庭での自主学習に繋げていきたい。 ICT機器の使用については新タブレットの入れ替え時期を迎えるにあたり、管理方法の徹底と情報モラル教育の強化について再度見直しを図り、力を入れていく。
2	[現状] ○令和6年度の学校評価生徒アンケートの結果では、「学校は安心して勉強ができる」という項目の肯定的回答は95%、また、「悩みを相談できる教師や友人の存在」に関する項目の肯定的回答は約91%であった。 ○生徒支援部や教育相談部を中心に、集団生活や生徒個々の課題について共通理解を図り、対応している。 [課題] ○生徒は2校の小学校から入学してくる。小学校で構築された人間関係から抜け出せない傾向がある。 ○配慮を要する生徒への支援の在り方が求められる。	・生徒一人ひとりへのきめ細かい支援や相談体制の充実 ・よりよい人間関係の構築	①心と生活のアンケートを各学期初めに実施し、生徒全員の二者面談を全学年で行う。 ②Sola-る一むの利用について明確な基準を設け、個に応じた対応をする。	①生徒の心身の健康状態に関する把握状況 ②教育相談の状況 ③配慮を要する生徒への支援状況 ④学校評価の関連事項の回答結果	学校評価生徒アンケートの教師のきめ細かい支援に関する肯定的回答率は92%であった。毎学期初めに心と生活のアンケートを実施し、生徒全員対象の二者面談を行い、一人ひとりと向き合う時間を確保することができた。また Sola-る一む(自習室)の利用については基準を共有し、運用することができた。	A	次年度も生徒一人ひとりに向き合う姿勢を学校全体でさらに確立していく。また多様性が叫ばれる中、配慮を要する生徒への支援を学校がとここまで広げることができているが課題となる。関係機関との連携を深めながら対応していく。
3	[現状] ○学校運営協議会において、学校の教育活動に関して、共通理解を図っている。また、学校と地域との関係性について昨年度より熟議を重ねている。 ○地域のボランティア活動等には興味を持つ生徒が比較的に多く見られる。 [課題] ○生徒の地域参加については地域との連携を深めながら可能な限り範囲を広げていく。 ○学校の教育活動については、引き続き工夫をしながら外部発信したり公開したりする機会を考える。	・地域との連携を踏まえた教育活動の充実 ・積極的な教育活動の公開	①学校運営協議会を年間3回実施し、熟議を通して地域との関連性を深める。 ②地域からのボランティア活動等の情報提供を積極的に生徒へ行う。 ③地域の方を講師とする伝統の体験出前講座を確実に実施する。	①学校運営協議会の開催状況 ②保護者・地域との連携状況 ③学校評価の関連事項の回答結果	学校運営協議会を年間3回実施した。第2回においては、教育環境の整備を議題とし、直接校内を見学した結果、地域からの協力等の方策案を提案していただき、共同の場となった。地域からのボランティア活動については生徒へ情報提供を行ったが割合はまだ高くない。伝統となる体験出前講座は今年度も生徒の貴重な体験の場となった。	B	次年度も引き続き、学校運営協議会での熟議の議題を明確にし、様々な御意見をいただきながら、地域の共同の場の一つとしたい。 特に学校(生徒)が地域に還元できるようなボランティア活動の取組の実現に向けて考えていく。
4	[現状] ○令和6年度の学校評価生徒アンケートの結果では、「安全配慮」に関する項目の肯定的回答は93%であった。 ○有事に備え、年度当初に行う集団下校訓練は小学校と連携して実施している。他の訓練についても計画的に行っている。また、PTAの協力の下、清掃活動や植物を植えるなど、校内の環境美化に当たっている。 [課題] ○危機管理においては教職員の意識が常に高い状態であるように安心安全な教育環境づくりを行っていく。 ○「物を大切に育てる心の育成」を行ってほしい。	・安心安全な生活の実現に向けた意識の向上 ・教育環境を通じた心の育成	①学校における様々な訓練(避難・集団下校・シェイクアウト・竜巻・不審者対応等)を計画的に行う。 ②危険箇所を発見したらすぐに報告する指導を徹底させる。	①訓練の実施状況 ②安全教育の推進状況 ③学校評価の関連事項の回答結果	学校評価生徒アンケートの安全に関する肯定的回答率は97%、安全への意識は高く、様々な訓練は大きく影響していると思われる。また学校評価職員アンケートでは、指導を含め、危険箇所や破損箇所に関する肯定的回答率は92%であった。今年度は劣化を除く、ガラス等の破損件数は現段階で1件である。	A	有事に備えた訓練の重要性を指導し、次年度も各訓練を行っていく。また危険箇所や破損箇所を発見したら、すぐに報告することについて生徒への指導を徹底する。さらに限られた清掃時間において集中箇所を指示するなど、清掃指導の改善を行う。
5	[現状] ○教職員の年齢構成のバランスはよく、教員経験年数の平均は比較的高い。 ○令和6年度の学校評価教職員アンケートの結果では、「教職員の一人ひとりの個性を活かした学校づくり」に関する項目の肯定的回答は75%であった。 ○令和6年度の学校評価教職員アンケートの結果では、ICT機器の授業の活用率は約90%であった。 [課題] ○教職員の業務への負担感を軽減させることと、経験年数の少ない教員への指導方法の継承が課題である。 ○ICT機器の授業での有効活用がさらに求められる。	・教職員の指導力の向上と組織力の確立 ・風通しのよい職場環境の構築	①研究推進委員会を中心に学校課題研究に向けた校内研修を計画的・組織的に行う。 ②日頃より関係事案について共通認識を図り、資質向上に関わる校内研修を年間4回以上行う。 ③若手教員の社会人教育研修を行う。	①教職員の資質向上に関わる研修状況 ②研修受講奨励の実施状況 ③ICT機器を活用した授業の推進状況 ④学校評価の関連事項の回答結果	令和6年度から8年度までの3年間の市の研究委嘱を受け、研究推進委員会を中心に道徳に特化して研修を進めてきた。その結果、教職員の共通理解が深まり、よい人間関係が構築できたと思われる。また教職員の資質向上研修を若手教員の社会人教育研修を含め、現時点で5回行い、資質向上に繋がった。また学校評価職員アンケートの職員の個性や良さに関する肯定的回答率は85%であった。	A	来年度本校では、市の委嘱『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』と市教育研究会研修大会の道徳部会の2つが研究発表予定である。ICT機器をさらに有効活用した授業実践を目標とし、また教師として備わっていないなければならない資質と指導力について組織を上げてさらに向上させていく機会とする。
			①適切に勤務体制を管理する。 ②教職員の放課後の時間を確保する。 ③報告・連絡・相談・見届けを徹底するとともに互いの声掛けを行う。 ④会議等を勤務時間内に終了させる。	①会議等の効率化の状況 ②AI採点ツール等の活用状況 ③学校評価の関連事項の回答結果	学校評価職員アンケートの職員の個性や良さに関する肯定的回答率は85%、教員等の勤務に関する調査では「風通しの良い職場」に関する肯定的回答率は約90%であった。また会議等を定時に終了させる等、業務負担軽減や職員の放課後の時間の確保を意識するなどし、比較的ゆとりのある勤務体制が整えられた。	A	AI採点ツール等の活用が業務の負担軽減に繋がった。次年度も活用の幅を広げていく。また教職員間の人間関係は良好であり、各主任を中心に経験年数の少ない教職員への指導・助言がされていたが、何度も繰り返し伝えていくことが重要である。